

SGH 通信 STONE SOUP

Mishima-Kita High School SGH Newsletter

November 24, 2017 No. 7

ベトナムで水上生活者を訪問

8月20日から24日までの日程で実施したベトナムへの海外研修では、昨年度に引き続き、チューヴァンアン高校や水資源大学へ訪問し、学生の皆さんとの交流を行いました。また、日本では「安南」として知られる陶器・バッチャン焼きの絵付けや、JICA 専門員の指導によるハノイ市街の生活排水の水質検査、といったベトナムの生活に根付いた体験活動も実施しました。しかし、参加生徒にとって最も印象深かったのは、ハノイ市街を流れるホン河の中洲に浮かぶボートに暮らす水上生活者の村への訪問だったようです。彼らの住居同様、不安定で先が見えない難民の皆さんの暮らしから、アジア諸国の繁栄の裏側にある厳しい現実を体感し、参加生徒の中に新たな問題意識が芽生えたことは、今回の研修の最大の成果だったと思います。(教頭・松本一真)

ベトナム研修の5日間での出来事は、私にとって本当に貴重な経験となりました。まず、驚いたことはベトナムの交通事情です。日本よりもバイクの交通量は多く、目を疑うほどでした。それに、二人乗りや三人乗り、ときには四人乗りをしているバイクも多く通っていました。次に驚いたことは、水上生活者を訪問したことです(写真)。日本では水上生活をしている人を見たことがなかったので、実際に暮らしている方と、村長さんにお話を聞かせていただき、とても良い経験になりました。今回、このベトナム研修を通して、日本とはまったく違う文化を体感することができました。そして、この経験をこれからの研修に活かし、いいプレゼンテーションを完成させたいと思います。(12HR・奥村望)



国交省沼津河川事務所ツアーに参加

私は豪雨対策のグループとして国土交通省沼津河川国道事務所のフィールドワークに参加させていただきました(写真)。私たちのチームは、狩野川下流域の住民に豪雨に対しての危機感を持ってもらい被害を減らすことを目的としています。ツアーに参加して方向性がより明確になりました。狩野川放水路や砂防ダム、休止ポンプの見学—なかでも一番衝撃的だったのは狩野川台風の体験談を聴かせていただいたことです。狩野川台風についてあまりにも無知だったことを痛感しました。身近に狩野川があるにもかかわらず、氾濫から命を守るための設備の存在さえ知らない…。ツアーで学んだ私たちからこの現状を変えるために動かなければならないと強く感じました。(13HR・坂田愛花)



1. 「トビタテ！留学 JAPAN」などで短期留学

今夏も文部科学省による「トビタテ！留学 JAPAN」で選抜された4人と、静岡県教育委員会「高校生生の海外体験促進事業」に合格した2人、本校後援会の海外研修奨学金を得た1人など多くの生徒が海外留学を経験しました。今年度のトビタテでは、「国際ボランティア」分野で2人が合格し、それぞれカンボジアとフィリピンで活動してきました。



●フィリピンの貧困地区でのボランティアに参加しました（写真）。食事提供活動を中心に現地の人々と交流してきましたが、その光景はあまりにも日本とかけ離れていました。服がボロボロな子が多く、裸でいる子もいました。その光景は衝撃的でしたが、一番の驚きは彼らがずっと笑顔でいることです。食事もままならない状況の中にいるのに、彼らは笑って今を精一杯生きている。そんな彼らを私は心から尊敬します。（22HR・小林香穂）

2. エンパワーメントプログラムを開催

8月7日～11日の5日間、韮山高校、沼津東高校と3校合同で、エンパワーメントプログラムが実施され、本校生徒33人が参加しました。そのうち2年生6人は昨年からのリピーターでした。このプログラムは、ハーバードやカリフォルニア大学等の一流大学で学ぶ様々な国籍を持つ学生との英語でのディスカッションを通して、「人間力」と「英語のコミュニケーション能力」を身に付けることを目的としています。間違えることを恐れず、自分の意見や考えを伝える大切さや楽しさを学びました。最後はみんなの前で、自分の夢について英語で語りました。

●初日はとても苦労しました。グループリーダー（大学生）の話を理解することで精一杯で、自分の意見を言う勇気が生まれませんでした。しかし、回を重ねるごとに、完璧を意識しすぎていることに気がきました。完璧な文法、発音ではなくても、伝えたいという気持ちや最も大事で、自然と文法や発音はついてくるとわかりました。何よりもコミュニケーションが大切だったのです。異国の人たちと会話することは非日常的なことで、とても貴重な体験でした。そして、何より楽しかったです。（16HR・山口達徳）

3. 東京大学で「水文学」を受講

1年生の希望者83人が8月3日、東京大学を訪問しました。午前中駒場キャンパスにて沖大幹教授の水の講義を聴講し、日本と世界の水事情を学びました。午後は本郷キャンパスに移動して東大在学中の本校卒業生に勉強方法、高校時代の過ごし方等を質問し、貴重な生の声を聞くことができました。文理選択も迫る中、進路について考える良い機会になりました。

4. 中学生一日体験入学で生徒がファシリテーター

中学生一日体験入学を8月1日開催し、中学生とその保護者1629人が参加しました。ファシリテーターの生徒がSGHについて体育館で全体説明を行った後、各教室でSGH体験講座を実施しました。

●全体説明に向けて、静岡県唯一のSGHの良さを知ってもらうためのプレゼンテーションを作りました。「伝える」ということを意識しながら話すことができました。それもSGHの活動を通しての成果であると思います。（23HR・杉山悠聖）

●体験講座はとてもよい経験でした。中学生の様子を見ながら行うので、臨機応変な対応の大切さを実感しました。SGHについて説明することで、自分たちが身に付けたい力や目標を再認識できました。（14HR・岩田いずみ）

◎体験中学生の声：自分から率先して意見を言うことの大切さや難しさ、それをどう使うのか知ることができました。リーダーは一人じゃないという授業の仕方がとてもいいと感じました。

5. 米国ルイス&クラーク大学の学生らを源兵衛川にエスコート

富士山周辺の環境を調査するため来日したルイス&クラーク大学からの訪問団が8月10日、環境NPO富士山クラブのコーディネートで本校を訪れました。生徒との交流会では、箏曲部の演奏を披露しました。源兵衛川でのフィールドワークでは、NPO法人グラウンドワーク三島に協力をいただきました。

6. コミュニティーFMに出演

●SGHの海外研修事後研修でご縁をいただいたNPO法人ウォーター・ビジョンが地域エフエム放送局の「FMみしま・かんなみ ボイス・キュー」で行っている番組に出演させていただきました。ベトナムでの海外研修に大変関心を持ってくださった理事長さんと様々な意見交換をすることができました。この放送を聞いた方々が、ベトナムだけでなく、自分とあまりかかわりのない国に対して少しでも関心を持ってくれたらうれしいです。（収録は9月26日、放送は9月30日）（23HR・福島奈穂）